

## EUSI メールマガジン Vol. 056 「2つのレファレンダム」(細谷雄一)

EUSI (EU Studies Institute in Tokyo)は、一橋大学・慶應義塾大学・津田塾大学の3校のコンソーシアムによるEUに関する教育・研究・広報を行う拠点です(詳しくは以下をご覧ください)  
[http://eusi.jp/content\\_jp/aboutus/about\\_eusi/](http://eusi.jp/content_jp/aboutus/about_eusi/)

### 【EUSI Commentary Vol. 041】

#### 「2つのレファレンダム」

細谷雄一 (慶應義塾大学法学部教授・EUSI 執行委員)

2つのレファレンダムがイギリス政治の将来を大きく左右する。一つはすでに終わったレファレンダム、すなわち2014年9月18日のスコットランド独立を問う住民投票である。そしてもう一つはこれから行われる可能性があるレファレンダム、すなわち2015年に保守党が総選挙で勝利した際に公約で2017年までに行われることになっているEUからのイギリスの離脱を問う国民投票である。

よく知られているとおり、1707年のイングランドとスコットランドの併合によってスコットランドは独立国家としての地位を失うと同時に、スコットランド議会も失った。その後のスコットランドは、イギリス帝国の一翼を担い、イングランドやウェールズ、そして北アイルランドとともに連合王国の歴史をかたちづくってきた。その歴史に大きな変化が見られたのは、1999年のスコットランド議会の設置である。

1997年5月の総選挙で勝利を収めたトニー・ブレア首相率いる労働党政権は、公約としてスコットランド議会の設置を謳っていた。首相のトニー・ブレアも、蔵相でありブレアの後継の首相であるゴードン・ブラウンも、スコットランドで生まれ育ったスコットランド人であり、ブレア政権はそれ以外にも多くのスコットランド出身者を抱えていた。それゆえに、スコットランドは労働党にとっての不可欠の票田であった。労働党政権は、スコットランドの自治拡大の要求に柔軟に応えることで、スコットランドの人々の期待に添えるはずであった。1997年9月にブレア政権においてスコットランド議会設置を問う住民投票が行われ、賛成票の多数により1998年にスコットランド法により129名の議員により構成される一院制のスコットランド議会の設置が決まった。任期は4年である。それに基づき、1999年5月12日に選挙の後に最初の議会が開催された。ところが、労働党政権の予想に反した新しい動きが見られるようになった。

1999年の第1回スコットランド議会選挙と第2回スコットランド議会選挙では労働党が比較第一党となり、自由党との連立政権を成立させた。労働党政権の下で、スコットランド議会選挙でも労働党は最大勢力となって、ウェストミンスターとスコットランドとの間で良好で安定的な関係が維持するかに思われた。ところが・・・

・・・

(続きはこちら↓)

<http://www.hit-u.ac.jp/kenkyu/eusi/eusicommentary/vol41.pdf>

## 【EUSI シンポジウムご案内】

### EUSI シンポジウム「EU 環境法における現代的課題」

EUSI では来たる 10 月 28 日(火)に、環境問題とその法的枠組・制度構築に関する以下のシンポジウムを開催いたします。

現在、地球環境を取り巻く状況はますます厳しいものとなり、世界各国においても様々な先進的な取り組みや、国際的に様々な規範や制度が重層的に形成されてきています。また特にこの分野に関する EU の取り組みは、世界的にも先端的なものであり、我が国でも日・EU の協力分野の中の重要な柱として位置付けられています。

今回このシンポジウムを開催するに当たり、EUSI では EU 環境法・国際環境法を研究されている内外の第一線で活躍されている先生方をお招きして活発な討論を頂くこととなりました。テーマとしても、EU 環境法・気候変動・環境政策の市民参加や情報公開・環境影響評価・水資源管理・生物多様性・原発問題など、数多くのテーマを取り上げることで、学問的のみならず社会的にも多くの関心を引き付け公論や公共意識を高めてゆきたいと考えております。

本シンポジウムに参加すれば、どんな環境問題が今 EU で議論されているのかが理解できるとおもいます。また最新の幅広い EU 環境法に関する問題を取り上げます。どうぞふるってご参加くださいませ。

-----

日時: 2014 年 10 月 28 日(火) 10:50-16:50

場所: 如水会館 3F「富士の間」(東京都千代田区一ツ橋 2 丁目 1-1)

言語: 英語 (日英同時通訳あり)

参加: 事前登録が必要です。

1. 名前、2. 所属、3. レセプションの出欠をご記入の上、10 月 21 日(火)までに EUSI 事務局 (hit-u@eusi.jp) までメールでお申し込み下さい。

問い合わせ先: EUSI 事務局 TEL:042-580-9117

開場 10:20 開始 10:50

10:50-11:10 開会挨拶、趣旨説明(EU 環境法の発展)

Uli Wienrich (駐日 EU 代表部 貿易担当第一書記)

中西優美子 (一橋大学教授)

11:10-12:00 基調講演

「構成国における国内秩序における EU 環境法の実施: 挑戦と達成」

Alexander Proelss (ドイツ・トリア大学教授)

12:00-12:30 コメント

高村ゆかり (名古屋大学教授)、Andrea Ortolani (一橋大学非常勤講師)

12:30-13:50 昼食

13:50-14:20 「気候変動政策と WTO との整合性」 森田清隆 (経団連主幹)

14:20-14:50 「オース条約と環境影響評価指令」 南諭子 (津田塾大学准教授)

14:50-15:20 「EU 水管理と非 EU 構成国」 佐藤智恵 (明治大学専任講師)

15:20-15:40 休憩

15:40-16:10 「生物多様性と生息地指令」

Sara De Vido (イタリア・サ・フォスカリ・ヴェニス大学准教授)

16:10-16:50 「福島後の原子力安全と原子力損害補償の課題と見通し」

川崎恭治 (一橋大学教授)

<http://eusi.jp/outreach/conference-symposium/20141028-sympo/>

-----

また主宰の中西優美子先生より、今回の EUSI シンポジウムに寄せて、以下のご案内文を頂きました。

今回の EUSI シンポジウムの主なメンバーは、年に2回実施している EU 環境法研究会のメンバーでもある。今回のシンポジウム及び来年4月に予定されているシンポジウムは、この研究会の成果の発表の場でもある。

このメンバーの大半は、実は大谷良雄先生の元一橋大学大学院のゼミ生である。

高村ゆかり先生 (名古屋大学) は、ゼミの先輩で、南諭子先生 (津田塾大学)、

森田清隆さん (経団連)、佐藤智恵先生 (明治大学) は、ゼミの後輩である。

高村先生と南先生は、直接、ゼミで一緒に学んだ。私は当時から EU 法(EC 法)を

研究していたが、高村さんと南さんは国際環境法を研究していた。現在は、

私は EU 環境法も研究テーマの一部としているが、それは、大学院生のときに、

彼女らの報告を耳学問で聞いていたのが役立っているのだろうと思っている。

EU 環境法研究会自体も EUSI の第2期のプロジェクトとして2013年6月に始めたが、声をかけたら、すぐにやりますと返事をくれた。そんな皆さんの協力に感謝している。

そしてこの EUSI のプロジェクトは、前 EUSI 所長の川崎恭治先生と一緒に考えた。

川崎先生は、私がドイツ留学から一橋大学にもどったときに、ちょうど他大学

から一橋大学に先生として戻ってこられていた。そのときは、先生の大学院

ゼミに参加させていただいた。私が2012年に専修大学から一橋大学に先生とし

て戻ってきてからは、ますます先生にお世話になり、感謝している。

Andrea Ortolani 先生は、2013年に開設した一橋大学大学院 EU 研究共同プログラムの必修科目である EU Research Skills と European Studies の科目(これらは EUSI プロジェクトでもある)を担当していただき、協力してもらっている。

Alexander Proelss 先生(ドイツ・トリア大学)は、昨年 EUSI のプロジェクトで

招聘した Christoph Herrmann 先生(ドイツ・Passau 大学)の紹介で、来てもらえ

ることになった。まさに、EU 環境法をご専門とされている先生で、このシンポ

ジウムの基調講演を担当してもらおう。

Sara De Vido 先生(イタリア・Ca' Foscari Venice University)は、川崎先生

からご紹介してもらった。国際法を研究されている。

今回、皆さんのお力を借りて、EUSI のシンポジウムを開催できることを大変ありがたく思っている。当日、有意義な発表と議論の場となることを期待している。

(中西優美子 一橋大学大学院法学研究科教授・EUSI 執行委員)

### 【EUSI イベントご案内 (シンポジウム以外)】

1. EUSI 政治プロジェクト講演会「共同体化する欧州に対するドゴールの挑戦」

日時: 2014年10月16日(木) 16:30-18:30

場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南館 B4 ディスタンスラーニングルーム  
言語: 英語 (通訳なし)  
参加: 自由・無料 (事前予約不要)

"The Gaullist Challenge to EC Europe 1958-1969:  
Constitutional Conflicts & Transformative Effects"  
(共同体化する欧州に対するドゴールの挑戦、1958年-1969年: 統合をめぐる  
対立と変革への影響)

講演: フィリップ・バジヨン博士 (ケルン大学歴史学部)  
討論: 川嶋周一准教授 (明治大学政治経済学部)  
司会: 細谷雄一教授 (慶應義塾大学法学部、EUSI 執行委員)  
<http://eusi-politics.tumblr.com/post/98711470575/2014-10-16>  
<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/20141016-politics/>

## 2. EUSI ワークショップ「EU 基本権憲章と構成国への適用可能性」

日時: 2014年10月17日(金) 14:40-16:10  
場所: 一橋大学国立東キャンパスマーキュリータワー5階 EUSI 事務局会議室 3503  
言語: 英語  
参加: 自由・無料 (事前予約不要)

講演: 「EU 基本権憲章と構成国への適用可能性: 単一化または連邦化への道？」  
"The EU Charter of Fundamental Rights and Its Applicability to the Member  
States - A Step towards Unitarisation or Federalisation?"  
フェルディナンド・ヴォレンシュレーガー (ドイツ・アウグスブルク大学教授)

司会: 中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 執行委員)  
<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/20141017-law/>  
<http://eumag.jp/events/g092614/>

## 3. DESK 欧州研究セミナー「ヨーロッパのデモクラシーを再考する」 (東京大学ドイツ・ヨーロッパ研究センター(DESK)主催・EUSI 共催)

日時: 2014年10月22日(水) 17:00-19:00  
場所: 東大駒場キャンパス 18号館4階 コラボレーションルーム1

書評: 網谷龍介、伊藤武、成廣孝編  
『ヨーロッパのデモクラシー』改訂第2版(ナカニシヤ出版、2014年)

参加者  
著者: 網谷龍介 (津田塾大学教授、EUSI 執行委員)  
討論者1: 河崎健 (上智大学教授)  
討論者2: 高島亜紗子 (日本学術振興会特別研究員、東京大学大学院博士課程)  
司会: 森井裕一 (東京大学准教授、ドイツ・ヨーロッパ研究センター長)  
<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/20141022-politics/>  
<http://www.desk.c.u-tokyo.ac.jp/j/index.html>

## 4. EUSI 政治プロジェクト講演会「日・EU 関係における政治対話の構築」

日時: 2014年10月25日(土) 16:00-18:00  
場所: 慶應義塾大学三田キャンパス 南校舎 4F 446 教室

言語: 英語 (通訳なし)  
参加: 自由・無料 (事前予約不要)

講演: 「日・EU 関係における政治対話の構築: 冷戦期における歴史の重み」  
"Constructing the Political Dialogue in Japan-EU Relations:  
The Weight of History in the Cold War Years"  
オリヴィエーロ・フラットリッロ博士 (ナポリ東洋大学助教、EUSI 客員研究員)

司会: 細谷雄一教授 (慶應義塾大学法学部、EUSI 執行委員)  
<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/20141025-politics/>

#### 5. EUSI ワークショップ「EU 環境法の原則: 評価」

日時: 2014年10月30日(木) 10:35-12:05  
場所: 一橋大学国立東キャンパスマーキュリータワー5階 EUSI 事務局会議室 3503  
言語: 英語  
参加: 自由・無料 (事前予約不要)

講演: 「EU 環境法の原則: 評価」  
"Principles of EU Environmental Law: An Appraisal"  
アレクサンダー・プレルス (ドイツ・トリア大学教授)

討論:  
サラ・デ・ヴィドゥ (イタリア・サ・フォスカリ・ヴェニス大学准教授)(予定)  
中西優美子 (一橋大学大学院法学研究科教授、EUSI 執行委員)(司会兼)  
<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/20141030-law/>

#### 6. EUSI 講演会「ヨーロッパと日本における死刑廃止について」

日時: 2014年10月30日(木) 16:20-17:50  
場所: 一橋大学東キャンパス マーキュリータワー7階会議室 (Conference Room)

講演: シュテファン・ヘルツベルグ駐日ドイツ公使

言語: 日本語  
参加: 自由・無料(事前予約不要)  
<http://eusi.jp/outreach/seminar-workshop/2014-10-30/>

7. 一橋大学・国立大学協会より国際シンポジウムのご案内が届いています。  
一橋大学主催・国立大学協会共催国際シンポジウム  
「グローバル人材におけるアーツとサイエンスー国際流動化時代の大学教育」

日時: 2014年11月20日(木) 14:00-17:40  
場所: 一橋講堂  
備考: 定員400名、参加無料、日英同時通訳有

開会挨拶: 山内進 (一橋大学長)  
第1講演: 北山禎介 (三井住友銀行会長)  
第2講演: 青木保 (国立新美術館館長)  
第3講演: Frances Cairncross (Rector, Exeter College, Oxford Univ.)  
第4講演: Carl Gombrich (Director, Arts & Sciences Programme, UCL)

パネル討論:

足羽與志子 (一橋大学社会学研究科教授: 司会)

北山禎介 (三井住友銀行会長)

青木保 (国立新美術館館長)

Frances Cairncross (Rector, Exeter College, Oxford University)

Carl Gombrich (Director, Arts & Sciences Programme, UCL)

井上間従文 (一橋大学言語社会研究科准教授)

Gyorgy Novaky (一橋大学森有礼高等教育国際流動化センター・ウプサラ大学教授)

司会進行: 松塚ゆかり (一橋大学森有礼高等教育国際流動化センター教授)

参加申込は、下記の URL ↓ からお願いいたします。

<http://www.arinori.hit-u.ac.jp/event20141120.html>

【EUに関するニュース】

- 2014年9月16日 EU及びウクライナ政府、連合協定批准。ファン＝ロンパイ議長・バルローズ委員長歓迎声明
- 2014年9月17日 第17回EU・韓国軍縮・不拡散協議、ソウルで開催。国連安保理北朝鮮制裁決議の履行など協議
- 2014年9月17日 欧州自動車工業会(ACEA)、8月自動車販売登録台数はEU28カ国で約67万台と前年同月比2.1%増
- 2014年9月18日 スコットランド住民投票、独立反対票55.3%で賛成票44.7%を上回る。投票率84.6%
- 2014年9月18日 ECB、貸出条件付長期資金供給オペ(TLTRO)の第1回入札で826億ユーロ供給。市場予想より低調
- 2014年9月18日 ECB理事会、来年1月より投票権輪番制導入、独仏伊西蘭5大国は4票・残り14カ国は11票に割当
- 2014年9月19日 クーレ ECB理事・アスムセン独労働次官(元ECB理事)、投資及び減税でのユーロ支援を共同寄稿
- 2014年9月19日 メドベージェフ露首相、EU・ウクライナ連合協定批准を受けウクライナ輸入品関税導入に言及
- 2014年9月21日 EU、9月5日ウクライナ停戦合意(ミンスク議定書)成立に対し歓迎及び停戦実施を要求する声明
- 2014年9月21日 EU報道官、アフガニスタン大統領選挙決選投票両陣営の挙国一致政権樹立合意を歓迎する声明
- 2014年9月21日 Global Carbon Project、1人当たりCO2排出量はEU28カ国で6.8トンで昨年比-1.8%、中国以下に
- 2014年9月22日 ドラギ ECB総裁、欧州議会経済金融委員会で、9月18日第1回TLTRO後第2回12月実施で需要喚起
- 2014年9月22日 欧州委員会、EU留学制度「Erasmus」の影響調査発表。非留学者と比べ能力や雇用等で高評価
- 2014年9月22日 欧州委員会、9月消費者信頼感指数(速報値)は、ユーロ圏18カ国で-11.4、EU28カ国で-8.0
- 2014年9月22日 ポーランド、トusk前首相の欧州理事会常任議長就任によりコパチ新首相就任宣誓式
- 2014年9月23日 欧州委員会、ロシアの対EU農産物禁輸を受け一部チーズなどの民間貯蔵支援措置を終了
- 2014年9月23日 EU報道官、中国司法当局によるウイグル族学者トフティ氏への国家分裂罪判決は不当との声明
- 2014年9月23日 サマラス・ギリシャ首相、欧州委員会・ECB支援脱却(2014年12月)表明、市場不安視
- 2014年9月24日 ドラギ ECB総裁、仏ラジオ局ヨーロッパ1で緩和的な金融政策を長期間維持すると言明
- 2014年9月24日 EU報道官、アルジェリア武装集団「カリフの兵士」による仏人登山家殺害を非難する声明
- 2014年9月24日 ケルコープ EUテロ対策調整官、アルカイダによる欧米攻撃の可能性を示唆
- 2014年9月25日 EU、通常兵器のテロ利用などを予防するための武器貿易条約(ATT)発効を歓迎する声明
- 2014年9月25日 ドラギ ECB総裁、ユーロ圏は下期に緩やかな成長の見通し、赤字削減と成長への政策に言及

- 2014年9月25日 ECB、8月ユーロ圏通貨供給量M3伸び率(季節調整済)は前年比2.0%と増進、民間貸出は減少
- 2014年9月25日 ポロシェンコ・ウクライナ大統領、包括的改革戦略「戦略2020」発表、EU加盟申請も言及
- 2014年9月26日 EU・カナダ定期首脳協議、戦略連携協定(SPA)と包括的経済通商協定(CETA)交渉妥結に祝意
- 2014年9月26日 EU・ロ・ウクライナ三者エネルギー閣僚級会談。EU、今冬のガス供給のための妥協案を提示
- 2014年9月29日 EU一般理事会、EU・ウクライナ連合協定内の通商関係条項の実施を2016年まで延期と決定
- 2014年9月29日 欧州委員会、ロシアの対EU農産物禁輸を受けてリンゴ・洋ナシなどの緊急支援新措置決定
- 2014年9月29日 ファン＝ロンパイ議長・バローゾ委員長、アフガニスタンのガニ新政権発足に対し祝意声明
- 2014年9月29日 欧州委員会、9月景況感指数(ESI)はユーロ圏18カ国で99.9、EU28カ国で103.6と共に前月比減
- 2014年9月30日 EU大使級会合、ウクライナ停戦に関して肯定的評価の一方、対ロ制裁は当面継続
- 2014年9月30日 EU、アイルランドの米APPLE社やルクセンブルクの伊FIAT子会社への低法人税はEU競争法違反
- 2014年9月30日 Eurostat、8月失業率(季節調整済)はユーロ圏18カ国で11.5%と前月比同、EU28カ国で10.1%

#### 【編集後記】

今回の巻頭エッセイは、慶應義塾大学の細谷雄一教授に執筆していただきました。細谷先生の幅広いご活躍振りについては、多言を重ねる必要はないかと思えます。先に行われたスコットランドの国民投票を手がかりに、大変多彩で興味深い文章を書いていただきました。執行委員としてEUSIの活動にも積極的に貢献されています。

秋という季節は、その過ごしやすい気候のせい(最近是不順な天候や災害などもあり、あまり安定しません)、各地で学会その他の会議が開催されるなど、大学関係者にとっても忙しい時期に当たります。EUSIにおいても、法律関係や政治関係のシンポジウム、講演会、ワークショップなどが、構成3大学の先生方のご尽力によって連続して実施され、実りの秋を迎えようとしています(メールマガジンやホームページで詳しいご案内をしているので、どうぞご確認下さい)。経済関係についても、11月14日には今年で5回目となるEU・アジア・トップ・エコノミスト・ラウンド・テーブルが200人規模で開催されることになっています。

先日、広尾にあるEU代表部(大使館)で会議が開かれ、EUSIの昨年度の活動報告と今年度の事業計画について議論をしてきました。教育、研究、アウトリーチという観点から我々の活動は構成されていますが、日本にあるEU研究センターに対するEU側の期待は非常に大きなものがあることを改めて痛感しました。質の高い研究、教育活動を行うことにより、現在のそして将来のオピニオン・リーダーを養成するとともに、まだまだ日本では十分に知られていないEUの姿が正しく理解されるように、広く社会に働きかけていくことが求められています。性格の異なる活動を両立させていくことには非常に難しい面がありますが、逆に大きな相乗効果を生むものだとも考えられます。と同時に、我々もEUからの期待や要請に応えるということだけでなく、こちらからEUを巻き込んでいき、お互いにとってプラスになることで何ができるのかを探るといった戦略的な視点が不可欠であると考えています。

今後のEUSIの活動の方向に関心を持っていただき、応援していただければ幸いです。

(藤川哲史・EUSI・一橋大学・EUSIメールマガジン編集担当)

秋はよく「藝術の秋」と言われますが、そんな藝術の都フィレンツェのルネッサンス期の美術品の粋を集めたウフィツィ美術館展が今日10月11日から上野の東京都美術館で開催されました。

フィレンツェは銀行家メディチ家を中心に共和制が敷かれ、レオナルド・ダ・ヴィンチやミケランジェロのような華やかな藝術家たちを輩出した藝術の街でもあります。映画「冷静と情熱のあいだ」は、この街に住む美術修復士が主人公で、学生時代のかつての恋人と「30歳の誕生日にフィレンツェの大聖堂(ドゥオーモ)のクーポラで」会う約束を物語にしたもので、フィレンツェの美しい街並みが余すところなく描かれています。

さてこの街はEUにもとても深く関わりがあり、1986年には2番目の「欧州文化首都」に指定され(最初は1985年のアテネ)、またEU研究を行う欧州大学院(EUI: European University Institute)を擁し、EU研究の世界的な学術研究の拠点として数多くの学者がここを訪れています。

来週10月16日(木)には、そのEUIのロベール・シューマン高等研究センターでポストドクとして欧州統合史を研究していた若き仏独関係史研究の俊英であるフィリップ・バジヨン先生をお招きして、講演会を開催いたします。ぜひ多くの皆様に御参加いただければ幸いです。

(林 大輔・EUSI 慶應分室・EUSI メールマガジン 編集担当)

---

EUSI (EU Studies Institute) in Tokyo

〒186-8601 東京都国立市中 2-1

一橋大学 マーキュリータワー#3504 EUSI 事務局

TEL: 042-580-9117 / E-mail: info@eusi.jp

ご意見、ご感想、配信登録・配信停止、その他メールマガジンについての  
問い合わせにつきましてはこちら

E-mail: info@eusi.jp

---